

シラバス

科目名：社会教育経営論	担当教員名：雲尾周・真柄正幸・種村文孝・渡邊洋子
-------------	--------------------------

- 単位数：2 単位
- ねらい、到達目標

人づくり・地域づくりを中核的に担える力をつけるため、地域の実情やニーズを踏まえた社会教育・生涯学習活動を計画・組織できるようになることを目指す。

【到達目標】：1. 社会教育・生涯学習の行政や法規、地域の実情やニーズを踏まえて、社会教育・生涯学習を計画する話し合いに積極的に参加できる。2. 社会教育施設を活用し、多様な主体との連携・協働を視野に入れた学び合いの活動がデザインできる。3. 学習成果を地域課題解決や地域振興、学校の協働等にもつなげていくための工夫やしなやかさを挙げるができる。

- 科目概要

社会教育・生涯学習行政と関係法規、社会教育行政の経営と計画、生涯学習振興と社会教育計画、社会教育主事・社会教育士の役割と現代的課題、学びの環境醸成とコーディネート、評価と学習成果の活用、広報、公民館と社会教育、図書館と社会教育、博物館と社会教育、地域課題の把握と地域課題解決への取組、地域振興と社会教育、地域の担い手育成と連携・協働ネットワーク、新しい公共と指定管理者制度等の内容について、講義と演習を交えながら扱い、実践力を育成する。

- 授業計画

回	講義の種別	講師	実施形式	各回の講義内容
1	講義・演習	雲尾周	オンデマンド	社会教育施設の機能と経営 1（図書館）
2	講義・演習	雲尾周	オンデマンド	社会教育施設の機能と経営 2（博物館）
3	講義・演習	種村文孝	オンデマンド	NPO と社会教育
4	講義・演習	種村文孝	オンデマンド	新しい公共と指定管理者制度
5	講義・演習	雲尾周	オンライン	社会教育経営論の基本 1（社会教育法等関係法規と生涯学習行政）
6	講義・演習	雲尾周	オンライン	社会教育施設の機能と経営 3（公民館）
7	講義・演習	真柄正幸	オンライン	社会教育経営論の基本 2（社会教育行政の経営と計画）
8	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	地域振興と社会教育 ※ゲストスピーカーを招聘
9	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	社会教育主事・社会教育士の役割と現代的課題
10	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	地域の担い手育成と連携・協働ネットワーク ※ゲストスピーカーを招聘
11	講義・演習	渡邊洋子	対面	社会教育主事・社会教育士の仕事 1（学びの環境醸成とコーディネート）
12	講義・演習	渡邊洋子	対面	地域課題の把握と地域課題解決への取り組み
13	講義・演習	種村文孝	対面	社会教育経営論の基本 3（生涯学習振興と社会教育計画）
14	講義・演習	種村文孝	対面	社会教育主事・社会教育士の仕事 2（評価と学習成果の活用）
15	講義・演習	種村文孝	対面	社会教育主事・社会教育士の仕事 3（広報）

- 評価について

- ・ 授業参加度（出席状況、講義の合間に行うディスカッションやコメントへの参加）
- ・ 小レポート（各回の授業ごとに実施するコメントシートへの記載）
- ・ 総括レポート（全授業回終了後に実施するレポートへの作成）

以上の結果を総合的に踏まえて判定する

- 備考

- ・ 法令については、「社会教育法等関係法規と生涯学習行政」において、主に社会教育法（および日本国憲法・教育基本法）、「生涯学習振興法」、地方自治法など、社会教育・生涯学習に関わる重要なものと主要論点などについて扱う。
- ・ 地域との連携に向けて、受講者が視野と実践力を培うことができるようにするため、「地域振興と社会教育」では新潟県内の地域づくり NPO の関係者、「地域の担い手育成と連携・協働ネットワーク」では地域の人材育成に関わる関係者をゲストスピーカーとしてお迎えし、担当講師と連携しつつ、双方向的な時間を創出する。

シラバス

科目名：生涯学習支援論	担当教員名：渡邊洋子・田中一裕・佐伯知子・真柄正幸
-------------	---------------------------

● 単位数：2単位

● ねらい、到達目標

地域社会における一人ひとりの学習者の多様な特性や学習ニーズ、学習課題を踏まえ、様々な学習の形態・方法を活用した学びの場や学習機会を企画立案・運営できるようになることを目指す。

【到達目標】 1. 学習者理解に関わる基本的な理解と実践上の留意点を、言葉で他者に伝えられる。2. 多様な学習方法・学習支援方法の理解をもとに、実際に対面的な場面で選んだ方法を試してみることができる。③実際に試してみた結果を口頭・文章で振り返り、達成できたことと課題・改善策を言葉で示すことができる。

● 科目概要

学習支援の基本的な考え方、学習者理解と学習者支援、成人学習／教育の理論、学習支援者の役割、学習者（成人、高齢者、子ども・若者）理解、参加型学習を含む多様な学習方法・ファシリテーションなど学習支援方法、ICTを活用した学習・学習支援、学習情報提供と学習カウンセリング、学習カウンセリングの実際、学習プログラムの企画立案等を取り扱い、講義と演習の両形式を用いながら理解と習得をはかる。

● 授業計画

回	講義の種別	講師	実施形式	各回の講義内容
1	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	生涯学習支援論の基本1（学習支援の基本的な考え方）
2	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	生涯学習支援論の基本2（学習者理解と学習者支援）
3	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	生涯学習支援論の基本3（成人学習／教育の理論）
4	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	学習者理解の構図1（子ども・若者の学習課題と生涯学習） ※ゲストスピーカーを招聘
5	講義・演習	渡邊洋子	オンライン	学習者の個人支援1（学習情報提供と学習カウンセリング）
6	講義・演習	田中一裕	対面	学習支援の方法1（ICTを活用した学習支援1）
7	講義・演習	田中一裕	対面	学習支援の方法2（ICTを活用した学習支援2）
8	講義・演習	佐伯知子	対面	学習支援者の役割
9	講義・演習	佐伯知子	対面	学習支援の方法3（ファシリテーションと多様な学習支援）
10	講義・演習	佐伯知子	対面	学習支援の方法4（多様な学習方法の実際）
11	講義・演習	佐伯知子	対面	学習者理解の構図2（成人学習者の特徴と学習ニーズ）
12	講義・演習	佐伯知子	対面	学習者理解の構図3（高齢化と学習支援）
13	講義・演習	渡邊洋子	対面	学習者の個人支援2（学習カウンセリングの実際）
14	講義・演習	真柄正幸	対面	学習プログラムの企画立案1（視点）
15	講義・演習	真柄正幸	対面	学習プログラムの企画立案2（実際）

● 評価について

- ・ 授業参加度（出席状況、講義の合間に行うディスカッションやコメントへの参加）
- ・ 小レポート（各回の授業ごとに実施するコメントシートへの記載）
- ・ 総括レポート（全授業回終了後に実施するレポートへの作成）

以上の結果を総合的に踏まえて判定する

● 備考

・ 地域との連携に向けて、受講者が視野と実践力を培うことができるようにするため、「子ども・若者の学習課題と生涯学習」では新潟県内の青少年活動組織の関係者をゲストスピーカーとしてお迎えし、担当講師と連携しつつ、双方向的な時間を創出する。

シラバス

科目名：社会教育演習	担当教員名：渡邊洋子・真柄正幸
------------	-----------------

- 単位数：2単位

- ねらい、到達目標

生涯学習概論、生涯学習支援論、社会教育経営論の受講成果を活かし、学習者の多様な特性や学習ニーズに対応した学習の場や学習機会のデザインできるようになることを目指す。

【到達目標】 1. 学習者の特性や学習ニーズについて考慮すべき事項を言葉にできる。2. 柔軟で多様な学習支援方法や多様な主体と連携・協働を取り入れた学習プログラムに向けて、話し合いに積極的に参加できる。3. 学習者の地域社会への参画に向けた意欲を喚起し、学習成果を地域課題解決や地域づくり、地域学校協働につなげる工夫や振り返りの議論ができる。

- 科目概要

事前にグループで決めた学習テーマに基づいて社会教育・生涯学習施設のフィールドワークを行い、生涯学習概論、生涯学習支援論、社会教育経営論で学んだ生涯学習・社会教育の考え方や方法論を活用しながら、グループごとに学習プログラムを作成する。同プログラムはリデザインを経て、全体に向けたプレゼンテーションで共有し、振り返りを行う。以上を通して、社会教育主事・社会教育士の職務遂行に必要な資質・能力の総合的・実践的な定着をはかる。授業実施に際しては、学外フィールドとオンライン演習を適宜、組み合わせて、学習実践の現場感覚をより体感できるようなものとする。

- 授業計画

回	講義の種類	講師	実施形式	各回の講義内容
1	演習	渡邊洋子、真柄正幸	オンデマンド	社会教育・生涯学習フィールド調査1 (地域の社会教育施設の訪問レポート)
2	演習	渡邊洋子、真柄正幸	オンライン	社会教育演習のイントロダクション
3	演習	渡邊洋子、真柄正幸	オンライン	社会教育・生涯学習フィールド調査1の振り返り・共有
4	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	社会教育・生涯学習フィールド調査2
5	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	社会教育・生涯学習フィールド調査3 ／学習プログラム作成1(課題の把握)
6	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	学習プログラム作成2(方針の決定)
7	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	学習プログラム作成3(学習展開計画1)
8	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	学習プログラム作成4(学習展開計画2)
9	演習	真柄正幸、渡邊洋子	対面	学習プログラムのリデザイン・プレゼン準備
10	演習	真柄正幸、渡邊洋子	オンライン	プレゼンテーション・振り返り・まとめ

- 評価について

- ・ 授業参加度(出席状況、講義の合間に行うディスカッションやコメントへの参加)
 - ・ 小レポート(各回の授業ごとに実施するコメントシートへの記載)
 - ・ 総括レポート(演習終了後に、個人個人が学習プログラムを作成)
- 以上の結果を総合的に踏まえて判定する

- 備考

- ・ 第1回講義はオンデマンド形式とする。動画を視聴後、受講者が各自で地域の社会教育施設を訪問し、その訪問内容をレポートにまとめることで、フィールド調査の一環として位置づける。
- ・ イントロダクションでは、対面形式でのフィールド調査および学習プログラム作成に向けて、生涯学習概論・社会教育経営論・生涯学習支援論の授業内容を改めて振り返り、関連する社会／地域／生活課題を意識しながら、各グループの基本方針を明確にするための事前準備の時間を設ける。